



春風化雨



写真:久松公園に建つ仁風閣...1907年に建てられたフレンチルネッサンス様式を基調とした木造2階建てで、今年100周年を迎えます。明治40年皇太子(のちの大正天皇)の宿舎として建てられたものです。国の重要文化財に指定されています。皇太子に随行した海軍大将東郷平八郎によって命名されました。

2007年度
(社)鳥取青年会議所
広報誌 4月号

因幡

INNOVA [ina:va]
変革

鳥取青年会議所
URL <http://torijc.main.jp>
E-mail torijc@hal.ne.jp

四月 理事長挨拶 安陪 幸伸

「子どもは育つのか、育てるのか、今回の広報誌で高塚人志先生と対談をさせていただきました。思いだした言葉です。この言葉の育つのか育てるのか、どちらなのか真剣に考えさせられたのは、少し前の教育改革でゆとり教育が取り入れられた年のことでした。

そもそもゆとり教育とは、学習者が自主的に自分の能力を伸ばすことを目的としておりました。過去の偏差値重視の詰め込み型教育ではなく、豊かな心を育み社会性や人間性を高めるために取り入れられた教育方針だと私は思っています。しかし実際にこのゆとり教育が取り入れられてからは、懸念していたように、学校週5日制が週休2日制と履き違えられ、教育現場も学習することも土日は休みの意識が定着してしまいました。その結果、子どもの基礎学力の低下はもとより、学力低下を危惧する親によつて塾や私立の学校に通わせる等の教育熱心さにより、子どもの学力格差が広がったわけです。このような結果をふまえてかどうかまでは判りませんが、教育基本法の改正が行なわれ、教育再生会議が開かれまして、国も現状の教育では駄目だと認識しているのでしょうし、本当に日本の将来を考えていきますと早急に変えなければならない問題だと思えます。

本来であればこのゆとり教育で新しく生まれたゆとりの時間は、先にも書きましたが豊かな心を育み社会性や人間性を高めるために使われるべきだと考えています。せつかくの土曜、日曜の二日間を子どもの親、地域、場合によっては学校といった子どもを取り巻く地域のコミニティーで育てていかなければなりません。

私の考える「子どもは育つのか」の答えはもちろんです。育つております。今回の対談で高塚人志先生よりいろいろとお話をお聞きし今のこの問題が判りましたし、最新著書である『いのちを慈しむヒューマンコミュニケーション授業』を読んであらためて人として他人を思いやる気持ちの大切さを実感しました。

もしかしたら、ゆとり教育として取り入れなければならぬのは、このヒューマンコミュニケーション授業ではないのでしょうか。

2007年度 日本JCスローガン 「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!

2007年度 鳥取JCスローガン 目標を見定め「我」実行せん!

■ まちづくりの仲間紹介 ■

毎月、鳥取県東部で活躍されているまちづくり団体をご紹介します

< 鳥取県子ども会育成連絡協議会 >

地域での異年齢の集団による仲間活動、特に子どもの遊びの特徴をとらえた活動をすすめ、社会の一員として必要な知識、技能、態度を学ぶとともに、健全な仲間づくりをすすめ、子どもの心身の成長発達を促す事を目的としています。

子ども会での体験活動が、21世紀を担う子ども達を成長させます。子ども会は、「子どもの手による子ども会」推進します。子ども会は就学前2年の未就学児童から高校生年齢相当を対象としています。

お問合せ
鳥取市扇町21番地 県民ふれあい会館内
TEL&FAX 0857-21-2287

まちづくりイベント情報

<花のまつり>

花の催しコーナー、お茶席、チャリティーバザー、露店、コンサートなどの路上イベントが行われます。花の苗のプレゼントもあります。(数量限定)
日時 平成19年4月29日
場所 若桜街道 ※歩行者天国



お問合せ 鳥取市花と木のまつり実行委員会
TEL0857-20-3222

<仁風閣100周年記念イベント>

～ Happy Birthday 仁風閣 ～
100周年を迎える仁風閣の庭園で音楽を聴きながらドリンク・スイーツがお楽しみいただけます。
※事前にお申込が必要です。(定員150名)
詳しくは仁風閣へお問い合わせ下さい。

日時 平成19年5月6日 13:00～16:30
場所 仁風閣 庭園
参加費 一般1500円 小学生以下無料
お問合せ 仁風閣 TEL0857-26-3595

○ 事業報告 ○

4月1日(木) 第3回研修会員研修会

今年は、因幡のまちづくりと個人の修練を志し、5名の青年が当青年会議所の門を叩きました。計3回の研修会にて青年会議所の概要や歴史を学び、また、因幡のまちへの想いを深めました。第3回研修会では、市内の清掃活動を行い、その後檮谿神社から市内が一望できる太閤ヶ平までトレッキングしました。



<研修会員の感想>

三回にわたって行われた研修会員研修会も無事乗り越えることができました。最初の二回はJCについての基礎的な事をいろいろ学び、その中で私たちへ課題を与えてもらったり、そのことについて発表を行ったりとこれまで経験したことのないことで少々戸惑いました。しかし、過ぎてしまってから思うことは苦しいことほど出来た時の喜びや、達成感がより大きくなるのではないかと思います。どんな事においても同じではありませんが、三回目の研修にあたってはそのことを一番強く感じました。これからも修練は多々ある事は私自身感じておりますが、それに負けないようがんばっていこうと思います。
福祉委員会委員 奥田 真悟

◆ 今月の表題 ◆

春風化雨・・・しゅんぷうかう

和やかな春の風とほどよい雨。化雨は植物の生長を促す適度な雨を言う。転じて、立派な教育のたとえ。
参照・・・「四字熟語」これだけ辞典

「青少年育成」

(社)鳥取青年会議所は創立以来、青少年育成をテーマに様々な活動を行ってきました。健全育成を目指した鳥取少年野球大会や三十回続く鳥取こどもまつり、近年はふれ合いや思いやりをテーマとした事業を展開してきました。次代を担う子ども達に人の心を大切に、また、自分たちの暮らす地域に愛着と誇りを持つてもらいたい、そう願っています。



〈高塚先生からメッセージをいただきました〉

◆今年の活動

青少年育成委員会
委員長 野田祐二

2007年青少年育成委員会は「おもいやり」の心をテーマに活動していきます。

人間は家庭をつくり、その家庭が集まり社会を形成しています。しかし、それぞれが自分の事だけしか考えていなかったら、そこは常に争いの絶えない社会になつてしまいます。人間はひとりでは生きていけません。自分の事だけを考へるのではなく相手の事を「おもいやる」ことが出来れば世の中はもつとよくなると思います。

「おもいやり」の心とは
具体的に何なのか？

- ・相手の気持ちを考え行動する
 - ・他者への尊敬
 - ・相手を気遣う
 - ・弱者を助ける
- などありますが、その根底には自分だけで生きていくのではなく、他者への関心を持ち「人のありがたみ」というものを知っていることが大切であるとおもいます。子供達の「おもいやり」の心を育成し、心の循環を生み出す事により明るい地域社会を築く事ができます。

◆過去の取り組み

過去の活動の一部を
ご紹介致します。

- 1961 海の子・山の子交歓会
- 1961~77 鳥取少年野球大会
- 1963 陸上競技指導会
- 1963 日米交換
- アメリカ児童画展
- 1963 鳥取青少年音楽祭
- 1963 教育座談会
- 1964 山の子を海へ招待
- 1965 教育者との座談会
- 1966 県教育長を囲む懇談会
- 1966 井植歳男の講演会
(中・高校生対象)
- 1967 ワークマンキャンプ
(働く者の集い)
- 1968 ワークマンキャンプ
- 1970~74 サッカー教室
- 1970 教育問題市民懇談会
- 1972 子供まんが大会
- 1973 子供マンガ大会主管
- 1973 こどもの国オープン、
きぼうの泉竣工式
- 1975 川上野球教室
- 1976~77 ワークマンキャンプ
- 1976 スポーツ教室
(バトミントン・卓球・柔道)
- 1976~ 鳥取こどもまつり
- 1976 川上野球教室
- 1977 松の聖母学園修繕奉仕
- 1977~78 バトミントン教室
- 1977 バスケボール教室
- 1977 夏休み懇話会
- 1977 わんぱく教室
- 1978 松の聖母学園修繕奉仕
- 1978 青少年非行の実態研究
- 1979 プロジェクトコンサート
- 1979 春の親子教室
- 1979 夏の親子教室
- 1979 図書問題関連事業
(鳥取ブックフェア)
- 1979 教育座談会
- 1980 チャリティーウォーク
- 1980~85 いなばつ子スクール
- 1980 精神薄弱者育成会
- 15周年記念チャリ
ティーオークション
- 1980 絵画教室「市内小学校
校写生大会」(山陰中
央新報社との共催)
- 1981 母と子の絵画教室
- 1982 鳥取市親子写生大会
- 1982 研修会(講師・鳥取県
警本部長 課長・
むつみ保育園 園長・
久松小学校 校長)
- 1982 親子ハイキング
- 1983 夢現展
- 1983 非行と教育を考える集い
- 1983~84 夢現展
- 1989 凧フェスタ・イン砂丘
- 1990 教育セミナー
- 1992 青少年育成事業
- 「親子平成教育委員会」
いなばつ子まちづくり
フォーラム、93
- 1995 因幡ハートランド21
- 1996 ハートランド、96
IN INABA
- 1999 創立40周年記念事業
分科会因幡市民
ジニアワールドゲーム
- 2000 わくわくサンドランド
〜親子で砂まみれ!〜
- 2003 チャリティー
フリーマーケット
- 2004 三つ子の魂百まで
〜子どもとの会話から対話へ〜
- 2005 チャレンジウォーキング

◆他団体の取り組み紹介

「遠足計画」

遠足計画は、子どもから地域を考える団体で、自主的に活動を行う任意団体(NGO)です。とつと冒険(とつと冒険)は「遠足計画」の活動です。子ども達が自由に遊べる場所、「あれをしてはいけない!」という禁止ばかりをするのではなく、また「これをしない!」という決められたことを子どもに押しつけるのではなく、「おもいやり遊ぶ」場所づくり、遊び場づくりをすすめていきます。都市の発展、すすむ都市化によって、子ども達から3つの「間」が失われていると言います。それは、「時間」「仲間」「空間」ですが、冒険(とつと冒険)はその中の「空間」を子ども達に取り戻せないかと考えています。「空間」「場」を用意してあげることに、他(とつとも戻ってくる)のではなく、具体的に、様々な道具、材料を公園に持ち込んで、プリーリーダーと呼ぶスタッフ(とつとも達)と様々なことをして遊んでいます。冒険(とつと)の遊びは、ロープや端材で作った手作りの遊具、水遊び、シャボン玉、おにぎり、つなひき、なごなわとび、針金細工、ペーゴマ、ペーゴマ、竹とんぼ、らくがき、などなど。プリーリーダーは、けつして指導をするのではなく、子ども達が行ったことを褒め、サポートをしながら一緒に遊ぶというスタイルです。必要とされるものがキーポイントです。今はアイデンティティを感じる場面が少なくなつてきて、しかも体験が足りていない。それが人との関係性が築けないことの原因です。あらゆる社会問題の原因であるように思っています。みんな自分を向いて欲しいのです。人に必要なのはお金やモノではなく、人から必要とされていると感じることなのです。安陪 そのためには自分からコミュニケーションをとっていくようにしていかなければならないですね。高塚 そうですね。それとまず体験がないとそうしようと思わないのかもしれないですね。だから教育が必要なんです。いかに人の力を引き出すのか。いかに学ぶ意欲や働く意欲を育むのかということですね。

因幡この人に聴く!

このコーナーは毎回因幡地域においてその活動が注目されている方々に話を伺います。

今月は「青少年育成」をテーマに鳥取大学医学部教育支援室助教高塚人志氏と安陪理事長が対談を行いました。

高塚人志氏 プロフィール
・順天堂大学体育学部卒業、倉吉西高校、倉吉東高校、赤碕高校を経て、平成十七年四月から現職。文部科学省中央教育審議会専門委員、1つと1つコミュニケーション研究会会長。新刊著書「命を慈しむコミュニケーション授業」

高塚 まずお伝えしたいのは、何事も継続してこそだということですね。教育はまさにそうだと思います。

安陪 私はそれともう一つ、子育ては地域主体で取り組むべきだと考えています。それから昨今ゆとり教育が失敗であったのではなにかといわれています。しかし方向性や本来の考えが間違つて捉えられているように感じます。学力の低下という数字の視点だけになつてしまつています。人間として大切なことを学ぶための「ゆとり」であつたはずなんです。高塚 私は今「ホスピタリティマインド」への気づきと、21世紀のキーワードだと考えています。それを医学生に教えています。「そばにいる人から喜ばれる喜び」これが大切な事です。今こういつた喜びが失われてしまつているように思います。



〈高塚先生〉

そこで行つているのが「いのちを慈しむヒューマンコミュニケーション授業」です。子ども達には、そして大人にも人と関わる事を喜びと思つて欲しいのです。その人をいかに喜ばせるか。その実感があるかどうか。現代の子ども達はその感覚が非常に不安定です。喜びの感覚を得る機会が無くなつて来ているのです。話は少し変わりますが、私は20年も前から食の重要性を訴えています。当時は全く世間から相手にされませんでした。今取り組んでいるこのヒューマンコミュニケーションもこれが必要になつていくのではないかと信じています。現代では心の健康が問題になつています。人と関れない、自分を肯定できない、人間関係を作るのが下手、マナーが悪い、自己中心的といったことが、背景には家庭教育や地域教育、学校教育の低下があります。具体的には子どもに物を与えずに、親がやりすぎる、手伝いをさせない、「教える」ことを教えない、異年齢による群れ遊びの無さ、自然体験や困難の体験が少なくて体験が無い。高度成長期以前は家の手伝いが当たり前でした。そこで家族から頼りにされる、あてにされる、そして自分で自身に向き合える。今はそんな経験ができますか。親からあてにされることありますか。安陪 無いですね。勉強を求められるくらいでしょうか。

高塚 そうなのです。求められるのは勉強だけです。あてにされること無いんです。川で遊んだり集団で遊んだりすることで他人とのコミュニケーションが育まれ、また自然の神秘を体験する。そうやって大人になつていくのが本来なんです。命にふれる、相手の表情を見て対応する、思うようにならないことも体験できる、そういう以前は日常で当然あるべき体験が全く無くなつてしまつています。ですからそのまま成長してしまい、大人になり、親になる準備教育ができていないのです。社会性や人間性が未熟な子ども達としてそのまま成長した大人が多いと思いませんか。自然に身につけていかなければならなかつたことができないから、こういった事態があるのです。人の役に立っているのかどうかといった「役立ち感」があるのかどうかで人は変わってきます。私は赤碕高校での9年間の準備教育で育ちました。こういふ取り組みが5年後10年後の世代を変えると思つています。私がやつている「気づきの学習」を少し実践してみましようか。理事長さんちよつと白紙に一円玉を書き込んで下さい。書いたら実物と比べてみてください。

高塚 やはりそうですか。実はみんな実際より小さく書いてしまつたんですよ。一円玉なんて数え切れないくらい触れているのに、よく分かつていないですね。出てくるのを見ない、気にしていない。これを人とかかわりに置き換えてみてください。人間の場合はちゃんと触れ合つて話をしていますか?この人はこうだと勝手に決め付けていませんか?私たちは聴く側が聴いてくれるから話ができるのです。



〈安陪理事長〉

言葉だけではなく、さまざまな形のコミュニケーションの仕方があるんです。例えば、ささやかな形で他人を理解するには相手の立場に立つてみるのが大切。これは学校だけではなく企業などでもいえることですね。私は取り組みの中で色々な気づきを与えていると思つています。こういった取り組みが全国で体験できるようにしていきたいです。こういった取り組みが広がれば日本が変わる可能性があります。私達にも勉強になります。

高塚 この気づきの学習は子どもからおじいちゃんおばあちゃんまでです。聴き方ひとつで人は育つのです。今、世代間を越えたコミュニケーションが欠如してきています。社会に出れば色々な人と触れ合わなければならぬ。色々な人がいて色々な考えがあるのです。言葉や色んな考えが持ちを表現したほうが相手に伝わりやすさ、伝わるように表現していかねければならないのです。人との関係性をきちんと築ける、そんなまちなつて欲しいと思つています。相手の立場に立つことが大切ですね。安陪 人に必要とされていると実感できるかというお話がありました。

高塚 幸せ感って何でしょうか。人から評価される、「よくやったね」と言われる事で自分を実感するのです。人間は抱きしめられるために生まれてきたといわれています。必要とされることがキーポイントです。今はアイデンティティを感じる場面が少なくなつてきて、しかも体験が足りていない。それが人との関係性が築けないことの原因です。あらゆる社会問題の原因であるように思っています。みんな自分を向いて欲しいのです。人に必要なのはお金やモノではなく、人から必要とされていると感じることなのです。安陪 そのためには自分からコミュニケーションをとっていくようにしていかなければならないですね。高塚 そうですね。それとまず体験がないとそうしようと思わないのかもしれないですね。だから教育が必要なんです。いかに人の力を引き出すのか。いかに学ぶ意欲や働く意欲を育むのかということですね。

安陪 それがヒューマンコミュニケーションですね。高塚 そうですね。それと実践することが必要です。地域も連動していくとさらによいと思つています。自尊感情がもつと必要です。役立ち感や話を聴いてもらえることも必要です。「聴く」という姿勢は人を育てる「人」と向き合つて下さい。人は目がなせつあるのか、耳が2つあるのか。口はひとつです。見て聴くほうが必要で重要だからです。しっかりと人と向き合うのが何より大切だと思つています。安陪 本日はありがとうございました。

お問い合わせ先
TEL&FAX 08567313888
Eメール boukenkiti@yahoo.co.jp